

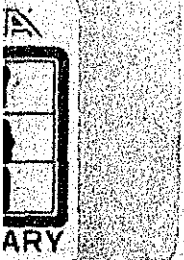
事業課

調査資料 第41

アマンバイ移住地概況

1964年8月

海外移住事業団



国際協力事業団

受入 月日	84. 8. 20	708
		23.4
登録No.	13290	EM

ま え が き

この資料はパラグアイ国ペドロ・ファン・カバリエロ市周辺の日本人居住
移住地（アマンバイ移住地、別名ペドロ・ファン・カバリエロ移住地）に関
するものであり、執務上の参考とするため印刷に付した。

1964年8月

海外移住事業団

西語地域課



目 次

アマンバイ移住地（ペドロ・ファンカバリエロ移住地）

ペドロ・ファンカバリエロ調査報告書

キャプタン・バード調査報告書

アマンバイ移住地(ペドロファンカバリエロ移住地)

ブラジル国とパラグアイ国の国境地点にあるペドロファンカバリエロ町周辺に最初の日本人移住者が入植したのは、当時この辺境地帯で23万ヘクタールの原始林を購入し大規模なコーヒー園経営に乗りだしていた米人ジョンソンの雇傭農として昭和31年から農園破散時の34年まで137戸(907名)が入植したに始まる。

農園の破産により、入植者の半数は近郊やブラジル国方面に転耕したが、残留を希望した67戸はジョンソン農園を出て、町周辺のエストレリア、セロラカピバル、サンハフティン等の現地人部落にそれぞれ原始林つきの既耕地や、原始林を買い求めて分散入植しアマンバイ農業協同組合を結成定着した。

その後フラム、チャベス、アルトパラナ 移住地よりの転入者もあつて現在約125戸、組合員所有面積約2,500ヘクタール余となつており、これら日本人移住者は附近パラグアイ人農家から模範的農家として親しまれている。

ジョンソン耕地への日本人移住者入植状況

入植年次	年 日 日	戸 数	人 数	備 考
1	56. 5.25.	38	260	
2	" 7.15	16	129	
3	" 7.25	2	18	
	" 8.20	20	120	
4	" 10.15	21	138	
5	" 11. 5	10	71	
6	58. 3.14	11	67	
7	" 5.18	19	104	
計		137	907	

ジョンソン耕地の概況

1953年

北米人ジョンソン氏は略称 CAFE・S・A なる会社を設立、パラグアイ国アマンバイ県ペドロファン・カバリエロの国有地 23,000ヘクタールの払下げを受く

1954年

50ヘクタールに区画しうち30ヘクタールに4年生のコーヒー樹を植えつけ15,000米ドルで売出す計画の下にパラグアイ人々夫により開拓を開始した。

1956年

日本人コロノも導入、当時農園労働者は4,000人、コーヒー作付面積4,000ヘクタール(3,600,000本)にも及ぶ

1959年

資金難による賃金不払のため従業員及びコロノの飛散、流亡の続出。破散の宣告。ジョンソン氏の退陣と農場清算業務の開始(残存コーヒー園1,000ヘクタール他は荒廃)

1. 位置(中心地ペドロファンカバリエロ町)

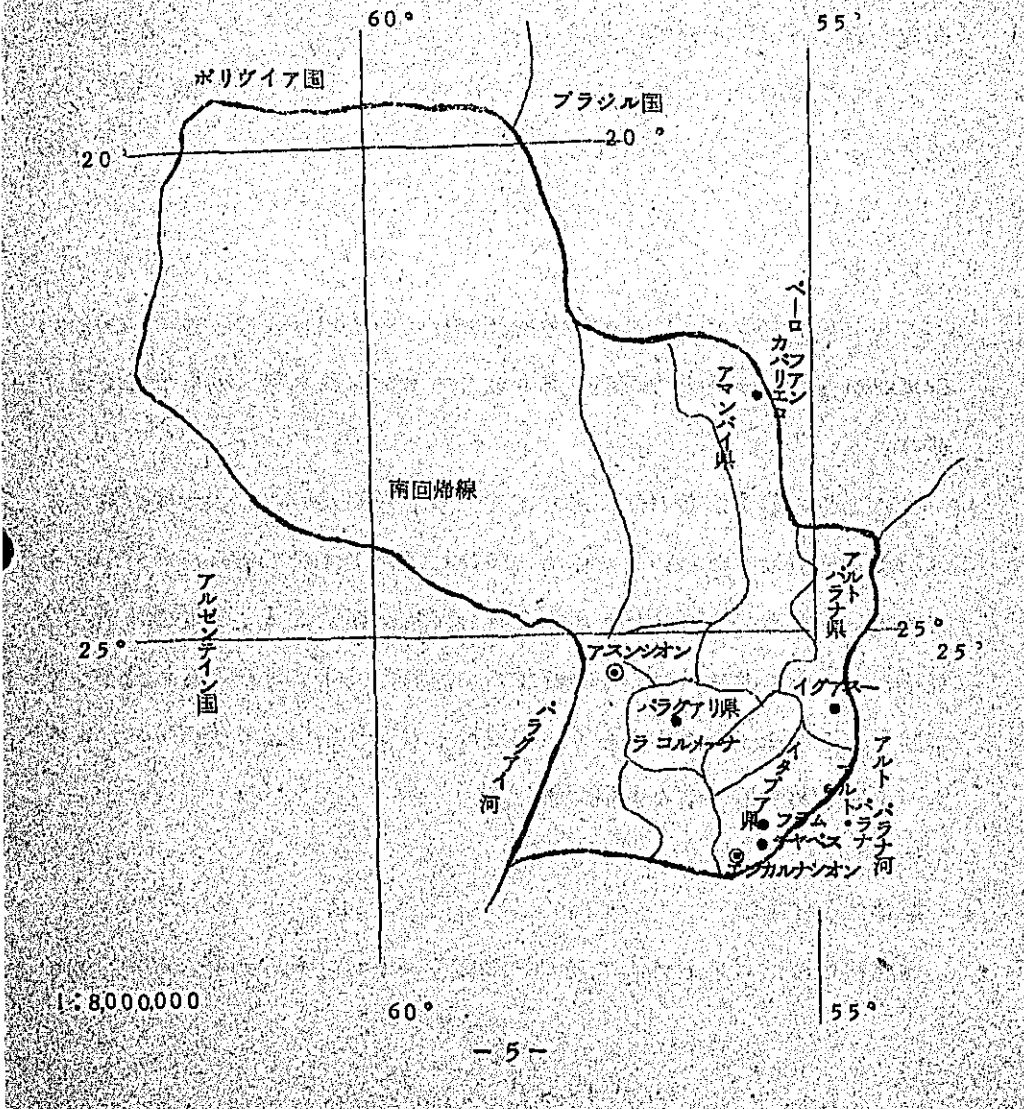
首都アスンシオン市より北東方400Kの地点伯領マツトグロツソ州ポントブラン町とは国境を距て、接する。

熱帯圏に属するが標高があるため亜熱圏の気候に似ている。

入植地はペドロファン・カバリエロ町より100K内外の距離に散在する。

移住地の位置

	ペドロファン カバリエロ町	アスン ション市	プレジテンテ フランコ町	エンカル ナシオン市	備 考
南 緯	22度	25	25	27	
西 経	55度	57	54	56	
標 高	650米	64	125	113	
近傍の 移住地	キャプタン バード	ラ・ コルメーナ	イグアス	アルトパラナ	



2. 地形・地味

標高600-700米一般に浸波状形の土地で大別して草原と森林地帯に分かれ農耕地は肥沃な森林地帯に限られている。

森林の土地はテラロンアでコーヒ栽培に適しているブラジル農務省の見解によればコーヒ栽培に毀された土地はマツトグロツソ州アマンバイ(ドラードス)地方であつて、この地域のテマロンアはパラグアイ国の旧O.A.F.E.耕地所在地まで延びており、この地域のコーヒ生産はパラナ州と同様、有望とされている。

又この土地はコーヒの他棉花、とうもろこし、大豆、マテ茶、及び小麦栽培にも適しているといわれる。

3. 気候

P・Jフアンカバリエロは熱帯圏に属しているが標高の関係で気候は一般に亜熱帯的で年間平均気温19.8度でアスンシオン等よりも涼しく爽し易い。

この地帯の涼季は5月から8月迄でありこの期間に数年に一度の割で大降霜がある。最も涼しい7月の平均気温は摂氏14度である。9月から4月まで続く夏季のうち、最も暑い2月の平均気温は24.5度である。乾季は4-6月及び8月の年2回である。降雨は12月-1月に最も多く年間平均して適度の降雨があり、年雨量1,600程度でイグアス、アルトパラナ各移住地と略々同様である。

4. 植物および動物

森林地帯にはピンドー、エンボカヤ椰子、オレンヂ、タイムポー、セイ

ドロ、ローロネグロ、ペローバ、マテ茶等の有用木を混じた処女林があり、それらの森林には広い草原が所々に間在している。

豹、ピューマ、山猫、猿、臭猫、猪、野豚、猿、鹿、トカゲ、毒蛇、蛙等々が棲息している。鳥類もその数が多くオーム類、蜂鳥、山鳩等々パラグアイは鳥の種類も多いことでも名高い。昆虫も珍しい蝶類、蛾、蜂類、蟹等々驚ろく程の動物が原始林の中に棲息している。

狸、ヤク、ぶよも未開地では困りものとされているが入植当初の6ヶ月だけで開拓が進むにつれてなくなつて行く。

5. 用 水

水質は極めてよく、森林地帯の所々に泉が湧き出て、清流をなしてゐる。井戸は8米前後である。

6. 宗教および教育

ローマカトリック教が国教であるが、その他の宗教も憲法によつて認められている。しかし結婚は司祭に祝福されない場合、合法とされない。

大衆教育は現在自由であり、名目的には義務制である。しかし田舎では教育程度が低く文盲が非常に多い。1932年から1935年にかけてのチャコ戦争以来、政府は初等教育組織を樹立し鋭意文盲撲滅につとめている状況である。

ペドロファンカバリエロ市内と隣接の伯國のボンタブラン市内にはそれぞれ5つの小学校があり。ボンタブラン市には中学校高校も設置されており、ブラジル側への学校入学は自由である。

入植地の近くにはバ国政府が小学校を建設しているが児童数が増加する

までは施設は充分でないから必要に応じて入植者は協力して改善して行く
気持ちが必要である。

7. 交 通

ブラジル航空会社機が月、水、金にサンパウロ発ロンドリーナ・ドラー
ドス経由ポントブラン市まで

アスンシオンからは日曜と火曜以外は航空機による連絡がある。

サンパウロ市とはカンボグランデ市経由の鉄道便があり行程 1,700 K
で3日2晩を用すまたバス便を通じている。

アスンシオン市とは直通道路はないが、コンセプション市よりパラグア
イ河を船便で連絡している。

8. 附近の主要都市

(1) コンセプション市

人口約3万人のコンセプションはパラグアイ河の東部河岸にある。同
市は街の活気は別として特に著名な都市ではないが、北部に於ける商業
の中心地であり、こゝはブラジルのポントポランと向き合つたベドロ・
ファンカパリエロ及び同じ名前のブラジルの都市と向き合つたベラ・ザ
イスタとの間を可成り貧弱な道路で連絡されている。メートル軌道鉄道
が東に60キロ離れたオルケタへ通じている。オルケタは人口1万家畜
及び材木の町として著名である。

(2) アスンシオン市

人口約25万パラグアイ国の主都であり唯一の大都市である。アスン
シオンはビルコマジヨ河と殆んど向い合つて合流している。パラグアイ

河の東部堤に切り込んでいる湾の沿岸に建設されている。

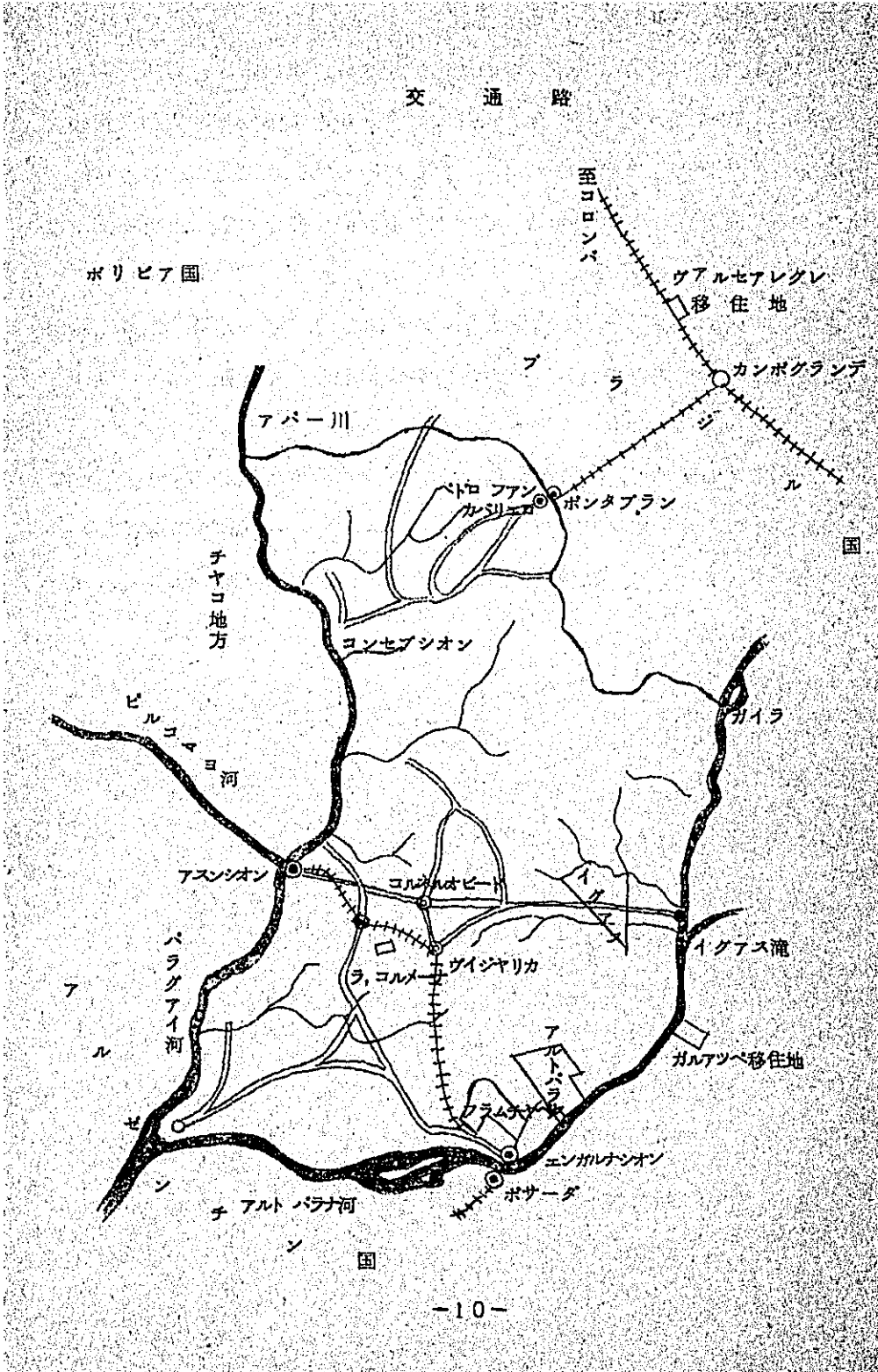
同市の人口はパラグアイ全土人口の約7分1を占めており同都全域の人口は約40万余と推定されている。河をのぞむ低い丘の上にある同市はスペイン植民地特有の矩形をなしてある明るい絵の様な印象を与える街である。

アスンシオンには一つの国立大学があり法学・工学・医科・歯科・薬学・測量学の講座をもっている。その他の学校も充実している。

(3) ブラジル側の都市

ポントポラン市、国境線で接しており経済、教育、文化等で密接な関係がある。カンボグランデ市、鉄道で連絡しており野菜等の市場としても重要な街である。人口8万日系人700-800家族が住んでいる。

交通路



衛 生

これといった風土病などはないが、12指腸虫等の寄生虫に罹っている現地人が多い。

その他現地人の病気として甲状腺腫等がある。風邪は時折り流行する程度である。ペードロフアンカバリエロ市及びポンタブラン市にはそれぞれ医療施設が完備されている。とりたてて心配すべき病気はない。

住 民

バラグアイ人はスペイン系白人と土着ガラニー族との混血である。彼等の言葉は公用語はスペイン語で、普通会話はガラニー語とスペイン語の混用である。その他にアスンシオン等と異つてブラジル語も通用することである。

ペドロ・ファンカバリエロ市にはこの他ブラジル人や小数のシリヤ人・支那人及び商店を営んでいる日本人等が住んでいる。純粹のインディオはバラグアイ人と別の社会を作つて政府の保護の下に生活している。

経済・その他

P・J・カバリエロ市周辺はバラグアイ国であるがブラジル経済圏内にあるため他のバラグアイ国都市と比較し極めて活気がある。通貨もクロゼーロ貨である。

生活必需品はブラジル産が比較的安価に入手でき生産物も小量なら自由にブラジル側に販売することができる等恵まれた経済環境下にあると云える。

コーヒ栽培地帯としてもバラグアイ国では数少ない地帯の一つであり、快適な気候、肥沃な土壌、活気のある経済環境等将来日本人の活躍すべき地帯として推奨できる入植地である。

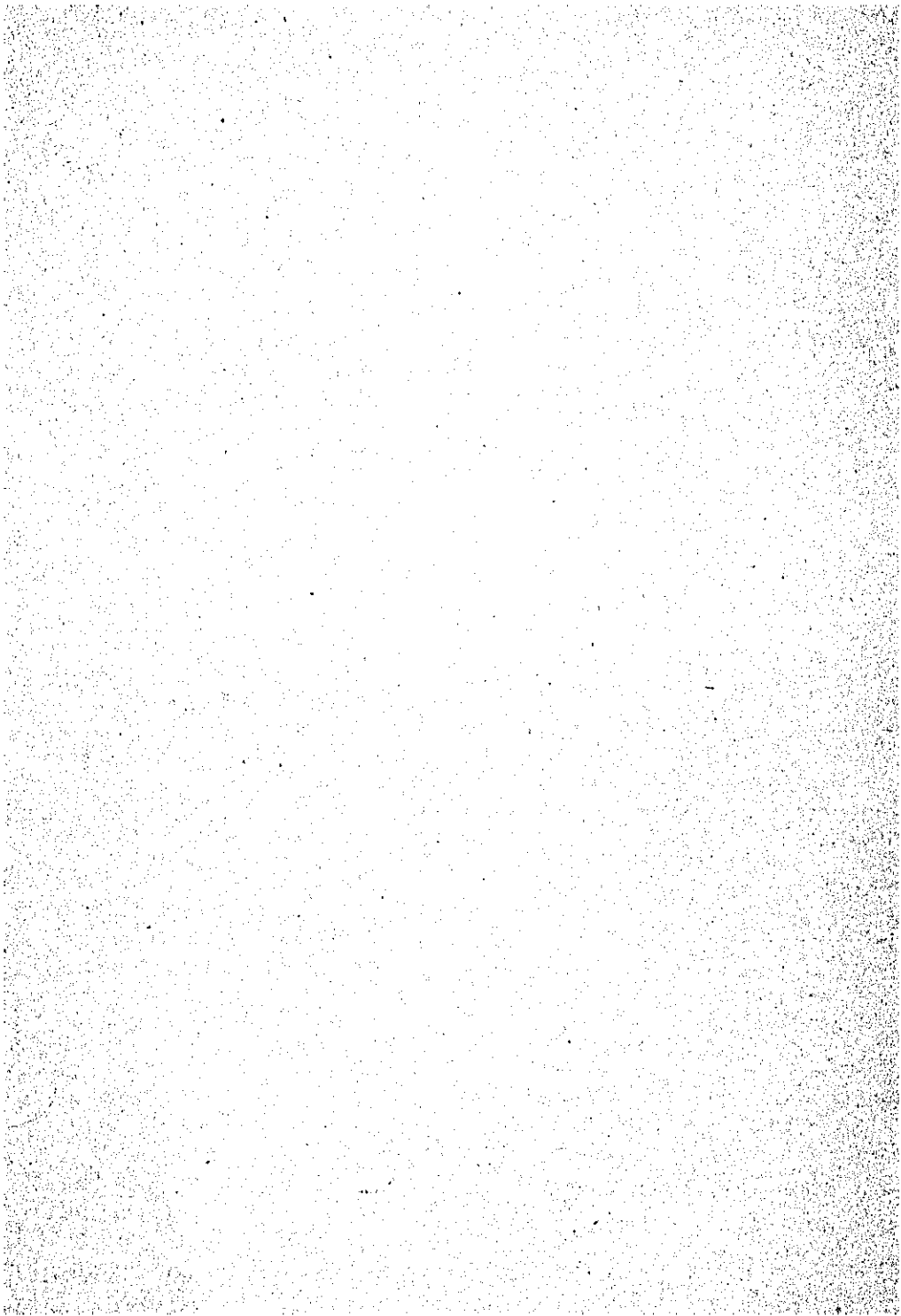
自営独立3ヶ年にして組員員永年作物(コーヒ)作付面積が戸当6,000本にも達し将来バラグアイのコーヒ産地として経済的にも発展するものと期待されている。

アマンバイ農業協同組合営農実態調査表

組合員名	事業団より借入金				所有地 ha	開拓地 ha	永年作植付面積		
	土地資金	長期富農 資金	短期富農 資金	計			コーヒー	ジェルバ マテ茶	果
1	50,000	30,000	-	80,000	23	18	18	-	-
2	50,000	30,000	-	80,000	23	18	18	-	-
3	50,000	30,000	-	80,000	37	17	16	-	-
4	50,000	30,000	-	80,000	25	15	14	-	-
5	50,000	30,000	-	80,000	25	5	5	-	-
6	50,000	30,000	20,000	100,000	38	15	8	-	-
7	-	-	-	-	16	10	7	-	-
8	-	-	20,000	20,000	16	6	5	-	-
9	50,000	30,000	20,000	100,000	13	6	3	-	-
10	50,000	30,000	25,000	105,000	13	5	4	-	-
11	50,000	30,000	25,000	105,000	26	8	6	-	-
12	-	-	25,000	25,000	15	9	6	-	-
13	50,000	30,000	-	80,000	15	4	3	-	-
14	50,000	30,000	25,000	105,000	23	16	12	-	-
15	50,000	30,000	25,000	105,000	23	13	10	-	-

1963年12月20日現在

組合員名	短期作物植付面積Ha						家畜数					前年度 収入 GS	前年度 支出 GS	差引 残高 GS
	大豆	小麦	水陸 稲	菜豆	その他 豆	野菜	馬	牛	豚	山 羊	鶏			
7	1	-	2	2	1	1	-	-	5	-	20	250,000	230,000	20,000
7	1	-	2	2	1	1	-	-	5	-	20	250,000	230,000	20,000
5	-	-	1	5	0.5	0.5	-	-	3	-	10	200,000	190,000	10,000
10	-	-	1	5	1	-	-	-	5	-	20	230,000	180,000	50,000
2	1	-	-	5	-	3	-	-	5	-	10	180,000	170,000	10,000
4	1	-	1	-	2	-	1	-	5	-	700	270,000	200,000	70,000
5	45	-	0.2	2	-	-	-	-	-	-	10	200,000	150,000	50,000
4	2	-	-	1	-	-	-	-	3	-	10	80,000	70,000	10,000
5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	700	220,000	200,000	20,000
10	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	200	150,000	120,000	30,000
3	-	-	3	-	2	1	1	2	5	-	700	300,000	250,000	50,000
8	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	20	80,000	70,000	10,000
2	1	-	0.5	1	-	-	-	-	-	-	100	70,000	60,000	10,000
3	4	-	1	4	-	1	-	-	6	-	10	280,000	230,000	50,000
1	2	-	1.2	1.5	-	0.5	-	-	3	-	10	160,000	150,000	10,000



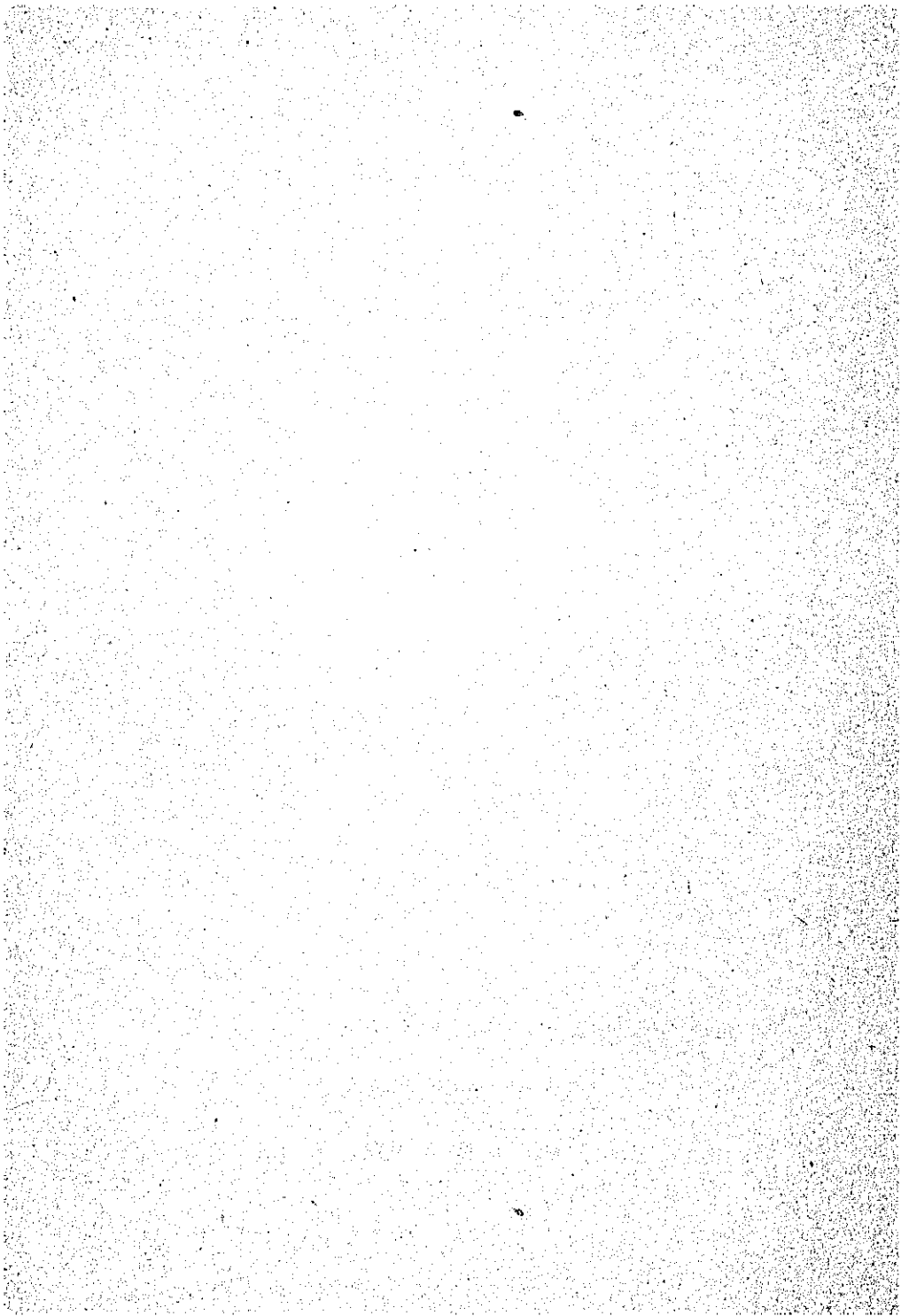
P.J.Caballero 調査報告書

1964, Enero

海外移住事業団パラグアイ支部

イタプア地区指導農場

寺 田 慎 一



P. J. Caballero 調査報告書目次

I 移住地のおいたち

II 自然環境と植生

III 経済環境

IV 移住地の営農現況

V 営農の将来

(I) Cafe 栽培からみて

(1) Cafe の適良な自然条件

(2) パ国に於ける Cafe の分布

(3) パ国に於ける Cafe の経済的位置

(4) パ国の Cafe 栽培に対する援助助成 - Cafe 法

(5) 移住地の Cafe 栽培法

(6) Cafe の将来性

(II) Campo 利用からみて

(III) Yerba の生産からみて

(IV) 果樹, 蔬菜, 養鶏からみて

(V) 林木生産からみて

(VI) 香料作物の栽培からみて

VI 結 論

P. J. Caballero 調査報告

I 移住地のおいたち

米人 Johnson は P. J. Caballero 市附近数ヶ所に散在する約 30,000 ha の所有地に Cafe 植付実施中、最も勤勉優秀である日本人を Colono として移住させるため 1956 年、日本に於いて契約移住が開始された。当時 Cafe 幼木の欠株多いこの耕地に左記 4 ヶ年の契約を結んだ。

1. Cafe 欠株を補植する。
1. Cafe 幼木の生育を阻害しない程度に間作を行い、その収入は Colono に帰する。
1. 4 年目の 1 作の Cafe 収穫量は Colono に帰し、これを独立資金とする。

然し、Cafe 耕地の経営不振がおこり、1959 年破産宣告を受けるに及んで、日本人 Colono はその耕地を買収するには余りにも高価でこれを買求めるもの 1 人もなく、近くの Johnson 耕地以外の既耕地、原始林を選定し 1 人平均 25 ha 前後を買収し自営農として定着するに至った。

この地方は広大な Campo が展開し、その中に密林や既耕地が散在しているので買収された土地も一大集団地をなしているものでなく、その後の新移住者を含め時期を異にして適地を買収しているので現在ではエヌトレリア、セロコラ、カピバル、シリグエロ、第一サンハブイタン、第二サンハブイタン等に分れ各々の集団地は 300~600 ha となつている。

Johnson 耕地の Colono は 1960 年解散と同時に自営農として進むこととなり、当時 60 家族が土地の選定、購入その資金導入のため任意組合を結成した。これが現在の法定組合の端緒をなしており、現在では組合員数 117 戸、組合員の所有面積 2000 余 ha となつている（事業団バラグ

アイ支部 1963年7月邦人移住地概況参照)

II 自然環境と植生

移住地は Paraguay と Brasil の国境線、両国の分水嶺に位置し標高 5~600 m の広大な Campo の中にある。

気温は夏比較的涼しく、冬は温く、夏期でも昼休みを長くする要はないようである。夜は熟睡出来ることを体験した。降霜はあるが寒さはきびしくないようである。1963年8月の全国的な寒波に於いても3-4年生のCafeは寒害を受けていない。最低気温の極数は人によつてまちまちであることは地形にもよると思われるが、前年8月は-10位であつたようだ。年雨量は東部地方としては少ない方に属するが、高温に過ぎることが少いので蒸発量も並行的に少くなるので土壤水分の不足に悩むことはないようである。

以上のような気象条件であるので、バ國に於けるCafeの適地(V-II-1)参照)として名をなし、ボンカン等の柑橘類に霜害を受けること少なく、又Olivも現在結果年令に達してないが栽培が成立つようである。当地方にはCopitan Bado街道に沿うてYerbaの純原生林がありYerbaの林も広面積に亘つて存在していると云う。而して同植物の品質はバ國随一である。

尚以上のような気象条件は果樹の生育及び品質にも好影響を及すこと、又Pastoの冬期生育減退が軽いこと、一般家畜の発育、保健上にもよい条件をなしていることを忘れてはならない。Campoは砂質のものが多く経済的に農耕地として成立するかどうかは不明である。農耕地は植土で粘性がかなり強いように見えた。或は壤土、砂土に亘つていて何れも肥沃である。耕地Campoともに緩やかな起伏をなしている。

III 経済環境

ParaguayのP. J. CaballeroはBrasilのPonta Poraと共に新興都市で現在併せて人口50,000 両市は国境線の道路を隔てて相對峙し、兩國交通の接点であり、物資の交流が行われ、經濟活動の盛んな市街である。而して貨幣は両市ともBrasilのCz Contで通用している。又氣候に恵まれているので、富裕な階層の住居となり、高級な日常生活物資の消費も相当見込まれる。

現在 Brasil 国貨が下落しているので Paraguay への密輸が盛んである。Avionを利用してAsuncionへ出しても充分儲るので満員続きであると聞いている。

兩國貨幣為替ルートの変動過程は次のようである。

年 次	Brasil Cz	Paraguay %
1956~'57	80	126 (公定)
'57	90	"
'58	120	"
'59	130	"
'60	130	"
'61	150	"
'62	500	"
'63	1,050	"

現在兩國の物資交流の主なものは次のようである。

バ国よりブラジルへ流れているもの	ブ国〜バ国に流れているもの
小麦粉(品質が良いため)	衣料品
石けん	ビニール

豚 脂

Cofe

外国輸入品

Cofe 豆の値段

パ 国

ブラジル

1俵(60Kg) 1,200%

1,200 Cz(左のみの価格)

1俵(40Kg市場の商品) 4,000%

4 Cont (左のみの価格)

国境の町として密輸の面白き1~2の例を述べると

1. Brasil側の同市邦人の金持ちはBrasilからパ国へ密輸して産をなしたものの多き由
2. Ponta Pora の国境線に沿うて4000 haの牧場, Fazenda Caranbolaはパ国の安牛を密輸し儲けている由(同経営主はその他に数ヶ所牧場を持ち更に自動車輸入業も兼ねている)

現在の P.J.Caballero の地価 (m² Cont), 移住地 (サンライタン) ha, Cont

市街中央地	10	上位	20
中位	5	中位	10
下位	1		

尚 Brasil側は此の約3倍

IV 移住地の営農現況

現地調査した地区の調査農家についてのみ述べる。全体を把握していないことをおそれている。

(I) シリグエイロ地区

P. J. Caballero の西方約20 Km, Concepcion 国道の北側に沿うた約30戸500 haの移住地である。次表のように土地所有面積が少くCofeを主体とし、この間作にmaiz, 大豆, 豆類を栽培し養鶏(主

としてバッテリー式)を兼ねている。

而して勤勉であるのと経営面積が少いので栽培管理が集約的で目下Cofeの育成面積拡大時であるのが特徴のようである。

近く所有地全部が開かれロッテ拡張を望むことゝなると思われる。尚養鶏は組合で共同出荷をし、avionにてAsuncionに出しているが、当地方でも充分さばき得る状態である。

卵価1打 大240Cz 中220Cz avion代 1打当り10%
箱代荷造り代3%

§ シリグエイロ地区の作付家畜飼養状況(1963.12)

氏名	入植後 年数	所有地	開墾地	長短期の 融資を受 けている 金額	Cofe作付とその間作				その他作付		家畜	
					ha Cofe	ha maiz	ha 大豆	ha 雑豆	稲	野菜	鶏	豚
O1	年月 3.2	38	15.0	100 千%	6.0	4.0	0.3		0.5	自家用	800	4 自家用
O2	1.6	16	10.0	なし	7.0	5.0	1.5	2.0	0.2	"		"
N	1.6	16	5.5	20	4.5	3.5	1.5	0.4		"		"
O		13		100	2.2	5.0		0.5		"	100	

(III) 第2サンバイタン地区

P. J. Caballeroの南約15Kmサンバイタン町の西側に位置し11家族450haの移住地である。次に示すS氏のLemon Grassを見るために出かけた。この地区には各自の企によつて主体作物を異にしむしろCofeよりも他の作物例へばYerba, 果樹を主としている人がある(そのような人に出合っているのかもしれない)之等の人々はJohnson耕地時代に取得した資金をこの面に投入しているのかもしれない。

因みに当地の果実の値段を示すと

りんご1ヶ 小売50~700z 卸300z

ボンカン1打 1500z 生産初年度に市場に於いて試食させ
その味を覚えさせたらすぐ売れてしまつたそうだ。今では予約申込もある由、値段はNaranjaより5倍も

Naranja 1打 300z 高い。

§ 第2 サンハイタンの作付例

氏名	移住後 年数	所有面積 ha	耕地 ha	永年作面積(ha)			間作 短期作	家畜	
				Cofe	Yorta	果樹		豚	鶏
A	3.2	2.4	12	6		-	6	2自家用	230
S1		20	16	3	13	-		10 "	20 外に牧場別
S2		96	36	-		20			

S1氏はLemon Grassハツカを取り上げている。現在両作物を増植中
近く苗を附近に配り、その生産物を停めて現在建っている葱溜釜で精油
を抽出する予定である。葱溜釜は直径高さ各6mで6×10mの小屋
(工場)に取り付けられている。両作物の取寄先は次のようになつて
いる。

Lemon Grass 米人のヤンベイ耕地で当地より35Kmを亘ている。
同耕地には現在25ha作付しており今後200haとし製品は
Asuncionに出す計画であるCofe 60,000本をつけCofeの
不適な土地にこれを作付している。

ハツカ Beasil カビナンス農試

この農場は隣接の山焼きから類焼を蒙り、両作物の生育も芳しくはなかつた。土質は砂質である。

Ⅲ 第1サンハブイタン地区

第2サンハブイタンの南、サンハブイタン町の西南に位置し28戸645haの移住地である。雨中M氏1戸を見学したに過ぎない。同氏は現在野菜陸稲を主としてP. J. Caballeroの特約店に生産物を出している。CampoにAlambreをめぐらし、近く牛の導入を計画している。その作付は次のようである。

入植後の年数	所有地	耕地	果	樹	玉葱	西瓜	Potato
			ボンカン	200本			
3.2年	80ha	24ha	パイナップル	100本	35ha	12ha	20ha
			ブドウ	100本			{年2回作り 延4.0ha}
陸稲	家畜						
		豚……相当数					
7.0ha		鶏……自家用					

V 営農の将来

(I) Cafe栽培からみて

(1) Cafeの適良なる自然条件

Cafeの一般的気温関係をみると、強熱を嫌い32℃以上の高温の続くところは、又寒さに弱く8℃以下に降るところは夫々その栽培に適せず15°~30℃間が適当とされている。

当地方の品種はアラビカ種と思われる。同種の一般的気温関係は次のように記載されている。年平均気温21℃平均最低気温13℃以上

平均最高気温 27℃が適温で熱帯地方でも 2000~10000 の高地に
時には 2000mm にまでつくられる。而して開花時に雨のないことが
望ましい。年雨量は 1270~2290mm がよい。低地の高嶺地では
ヤシのような庇陰樹と混植されている。土壤は有機に富み耕土は深く
排水のよいことが必要とされる。

果実は開花後 8~12ヶ月で成熟するが熱帯地方では周年開花する。
一般に栽植後 3~4年目から結実、6年目には充分な収穫が得られ、
経済的樹令は 30年とされている。

(2) パ国に於ける Cofe の分布

酷暑と寒さを嫌う作物であるのでパ国内に於いては低緯度の地帯の
標高の高い所が一応考へつく、又土壤的条件からして有機質が多く排
水もよく相当の降雨量のある土地となると東部密林の高台となる。

結局パ国では自然的環境からみると東部地方に於いて南北に走る密
林地帯の高台、北端がこの Amanbay 県で、ここが唯一の Cofe の適
地として位置づけられているものゝようだ。パ国の Cofe の栽培面積
を農牧省“Paragoay” 1960年より拾つてみると次表のようであ
る。資料はないが栽培面積が次第に増加していることは当移住地の例
及び輸出量の増加からみても明らかである。

パ国に於けるCofeの栽培面積及び栽植本数(1957)

地 区	面積(ha)	ha当植付本数(本)	栽植本数計(本)
Amanbay	5,875	900	21,150,000
La Cordillera	407	800	325,600
Ca aguazic	192	1,600	307,200
Guarira	100	800	80,000
Con cepcion	171	800	136,800
Her nandarias	32	650	20,000
其 の 他	130	800	104,000
計	6,907		22,124,400

上表を見ても Amanbay とその山系地方でパ国の90%を占めている。その他の栽培地は同一種類とすれば果して適気象下にあるかどうか、順調な生育をもち得ているかどうか疑問である。

(3) パ国に於けるCofeの経済的位置

先づパ国に於けるCofeの輸出入状況を見ると次表のようである。

a 輸 入(t) ()は金額

年 次	輸 入 先		計
	Brazil	Argentina	
1960	10(3,000\$)		10(3,000\$)
61	11(4,000\$)	15(3,000\$)	26(8,000\$)
62	10(2,000\$)		10(2,000\$)

b 輸 出 (t)

年次	輸 出 先									
	アメリカ	オランダ	ドイツ	ベルギー	アルゼンチン	スペイン	ウルガイ	イタリア	其他	計
1958			6	30						36
" 59		108		388	301			110	379	1,286
" 60	956				422				15	1,396
" 61	1,113				636		61			1,810
" 62	776		39	15	2624	1,127	207			5,269

c パ国の総農産物輸出額とCofeの輸出額

年次	1958	1959	1960	1961	1962
総輸出(t)	341,630	236,192	299,372	341,349	350,445
" (4\$)	34,102	31,195	26,978	30,677	33,465
Cofe(t)	36	1,286	1,396	1,810	5,269
" (4\$)	24	693	766	993	2,835

上表を見るようにパ国のCofe生産輸出は世界最大のブラジル(1957生産140万t, 輸出量86万t)に比べると微々たるものに過ぎないがその輸出額は年々上昇し、農業生産物の種類とその量に於いて少い。パ国にとつて1962年に於いては、総輸出農産物に対し8.5%程度の輸出額を示し外貨獲得の1役をかつている。

(4) パ国のCofe栽培に対する援助助成—Cofe法

パ国に於いてはCofeの栽培を助長し生産の増強を計画し、種子、農機具、肥料、農薬に対する助成、従業員保険料免除輸出に対する

便宜供与等を行い栽培者を助成している。その法律は次のようなものである。

而して生産者の手取りは隣国 Brasil より遙かに有利である。Brasil に於いては Cofe は専売であり価格を一定に保持し輸出価格と生産者手取り価格との差額即ち政府の利益金を以つて国家的 Cofe 行政を行つている。

即 政府の販売する価格	42 \$ (1袋 40 Kg)
生産者の手取り	20 \$

コ　－　ヒ　－　法

第 1 条 政令により苗科植物（コーヒー）の適地と宣言せられた地帯に於いてコーヒー樹 20,000 本を下らない植付を有する内国人もしくは外国人たるすべての個人又は法人は本法令の与える特典を享受する。

第 2 条 本法令の特典に均霑することを欲する者は当該記契書類を添付して農牧省にその旨を書面で申出ねばならない。同者は予めその申出の正確なことを確めたのち本法令の効力のための認可の決定を行いコーヒー栽培に利用されている土地の地券の下部にこれを記入し、特別登録簿にこの旨を記載する。

第 3 条 本法令の与える特典は次の通りとする。

a 栽培用コーヒー種子の導入に際し輸入税附加税及びその他一切の関税、領事手数料の免除たゞし消費のため種子を売却することは禁止される。

b 前項による免除は資本導入の形式としてのコーヒー業の設置及

び開発について必要欠くべからざる農業用機械工具設備及び附属品補充品発電機トラクタートラック、ハーフトラック、ジープ飛行機肥料殺虫剤及びその他の資材の輸入に対し前項同様の免除、同様の免除は本法令の受益者が外国において契約する技術家の職業的活動に必要な作業用器具及び科学機械並びに個人用身廻品の導入に対しても入国の日附より2年を越えないう様期間与えられる。

- c 選別したコーヒー種子の取得のためパラグアイ中央銀行による外国為替の発給。
- d その所有者の作業計画を阻害するが如き植民のための一切の収用または利用からコーヒー栽培に当てられた土地を除外すること。
- e コーヒーの輸出から生じた外国為替の50%を1970年迄生産者に保有を許すこと、この50%を生産者は次の目的のため自由に使用することが出来る。
 1. 導入資本の償還利息及び配当金の支配
 2. コーヒー栽培計画に関し外国に於いて契約した債務の支払。
- f 国内消費に当てられる割当を超過する年産コーヒーの全量の輸出のための行政的便宜供与。この割当は各生産者の収穫量に応じて商工省によつて定められる。

第4条 生産者の蓄積したその利用しなかつた処分自由の外国為替はパラグアイ中央銀行に売却し得るものとする。

第5条 本法令の特典をうける個人又は会社は現行移民法及び労働法に従い農業者及び特殊技術員の労務契約を外国において締結する

ことが出来る。

- 第 6 条 本法令の受益者たる個人及び企業その雇人及び労働者はコーヒー植付の初年度より5ヶ年間社会保障局への課金支払を免除せられる。この期間中被使用人の健康及び衛生は保健省の監督の下に地主の負担とする。
- 第 7 条 本法令の受益者はその耐用期間中導入資材をもつて取引することが出来ない。これら資材は作業計画にのみ使用し得るものとする。ただし、最新式の機械により又は受益者の責に帰するべからざる正当な理由により更新せねばならないときは予め当該手数料関税及び租税を支払つた上、譲渡するの権利を有するものとする。政府の明白な許可なくしてこれら資材の再輸出は禁止される。
- 第 8 条 導入資本を構成する機械器具は最高の状態の有能の有効性及び生産性を負えねばならない。その輸入はパラグアイ中央銀行の与える許可によらねばならない。
- 第 9 条 農地改革院は本法令及び移住法によつて入国する管理職員技術家専門家及びその家族のため旅券査証用の書類を発行するものとする。
- 第 10 条 特別な有効期間を示されていない本法令の受益者は第1回の収穫及びその輸出から算入して10年間取消不能のものとする。
- 第 11 条 コーヒー開発は農牧省の規定する土地及びコーヒー林の合理的保存方式及び衛生、防禦法を従つて行われるものとする。
- 第 12 条 本法令に規定されなかつた事項は政府によつて決定せられる。
- 第 13 条 政府は本法令の細則を定める。

第 1 4 条 代議院に通知せよ

第 1 5 条 公文書登記書に通知せよ

以 上

(5) 移住地の Cofe 栽培法

§ 植付け

A 直播の場合

密林を新に伐採した土地で行う

播種 3~8月 播種 10~12月

直径 30cm 深さ 10cm の植穴 (coba) を掘り、その底部に 2 列に 15~16 粒点播

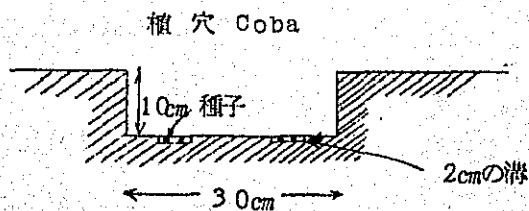
覆土 2cm

播種後 coba の上を長さ 40cm 太さ 6cm 位の薪にて密に覆う。

約 40 日にして発芽、発芽本数 7 本以上の場合は間引き、7 本以下の場合には間引かない。幼植物が coba の上に出るまでは約 1 ケ年を要し、その間 coba に這入つて来る土砂、塵埃等を年 8 回ぐらゐに亘つて取去るが前 6 回位までの穴掃除が特に悪くなる。本葉が 6 枚位になつたとき、薪 (Raja) をすかし、光線を少しあてる。暫時にしてこの

すかしを少し拡大して行く、植物体が Raja にとどくようになる、これを井状に積変へる

この期間まで約 1 ケ年を要す。一ケ年以後でも穴掃除すると生育がよい。2 年位経過して始めて coba を埋める。この穴掃除と



Raja の積変へに手間がかかるようである。又 Raja をすかすとき、又井型に積変へときに霜害にかかり易い。

B 移植の場合

傾斜地、砂地に於て coba が埋り易い土地条件の場合に移植を行う。苗床をつくり播種し、本葉 4~5 葉のとき薄皮ラミーナに包んで暇植、2~30 日目にラミーナを取去つて直播の場合と同様な coba に 2~4 本宛定植す。移植の場合は穴掃除は 2~3 回ですむ。

§ 品種と栽植距離

- a モントノーボ 植物体は大きい 3~4 × 4~3 cm
多収である
- b カトウウラ 矯性で本数を多くする 3 × 2 m
- c ボルボン 余り植えていない品種
である。

隔年結果がひどい

§ 間作 約 2 ケ年間は大部分間作を行つている、maiz が一般的に作付される。

§ 収獲 枝が伸び各葉腋に簇生して開花し、又伸びて開花結実する。低温がないと周年枝が伸び開花結実する。従つて果実の成熟したものと未熟のものとを分けて収穫するか、或は 1 時に収穫するとは熟度の異つた果実が混合収穫される従つて寒さが来ることは或る程度果実の熟度を揃えるのに有利のようである。

然し当地方でも 1 回の収穫では熟度の異なる果実が同時

に収穫される。収穫は枝を手でしごいて果実を地面に落し、これをかき集める。

§ 乾燥調製 収穫後夾雑物、土砂を節別分離しコンクリートか煉瓦の乾燥場で黒種は1~3日、赤実は7~15日乾燥する。而して俵詰とし出荷する。

§ 脱皮 出荷された乾燥肉付Cofeは工場にて脱穀機にかけられ脱皮され等級別に俵詰される

(6) Cofeの将来性

当地方で最も不安な気象要素は霜害であるが、1963年8月の全国的強霜時に於いても結果年令の植物には余々寒害を与へないことは特記すべきことで、総体的にCofeの適地と見なし得る又バ国は同作物の栽培に対して特別の法律を以つて保護助成し更に値段も相当によいので今後極めて有望な作物である。

然し気象的に栽培適地がどの位の面積があるか、又集团的にどの程度あるか調査して置く要がある。これは附近一帯は広大なcampでありその中に散在する土地条件のよい土地を選定するとせば案外少面積になつてしまふかもしれない。一方既入植地では各ロッテの耕地が狭少なのでCofe園の拡大と、子供のためのCofe園の取得が近い将来おきるからである。開くところによるとCofeの適地地帯はこの国境線の高台に沿うて巾4~5Km延長150Kmであるとのことである。

この適地に邦人を積極的に入植させることも有利である。当地方の営農方針としては永年作Cofeを主体としこれにCampの利用肉牛の飼育とを併列することが最も安全で強固であると思

われる。

附記 Cofe には積類が多く熱帯低地向の品種（相当の暑さにも耐え得る品種）があるのでパ国東部地方の北部低地にも適する品種を選定すれば一戸栽培面積が拡大され得る。

(II) Campo の利用からみて

既述の如く、当地方には拡大なる Campo が展開し、これが気象的にみて冬期の草の生育減退が少く家畜の保健上にも有利である。又近年以来肉の需要増と値上りは独りパ国だけではなく世界的である。Campo に恵まれた当地方では大いに之を利用すべきである。即前節に述べた様に Cofe と牧畜とを営農の柱とすべきと思う。

(III) Yerba の生産から見て

(1) 当地方の栽培状況

当地方は Yerba の原産地でもあり、その品質の優良なことは既に述べた。当地方の Yerba 栽培には Yerba の混稀原生林を焼き、焼株から萌芽する株を適當の間隔を保たせて仕立てる場合と、一般植付の場合のように苗床—播種—仮植—定植の過程を経て仕立てる場がある。何れにしても大型仕立であるのが目立つ、一方当地方には密林中に野生 Yerba が多いので道路をつけつゝ採葉が行われている。栽培 Yerba は登録制によつて毎年の採葉は自由に行われるが此の野生 Yerba の採葉は隔年採葉制度となつている。

而して野生 Yerba は余りにも多く Amambay 県の 3/5 の面積に分布しているので隔年採葉でも取りつくせないとも云われている。斯く野生、栽培両用の Yerba が多量に生育しているので Yerba 工場も相等数運転されている。

mate の製造と Yerba の将来

この他に注目すべきは Ponta Pora にある Matep 工場である。1962年 Twiss の製造方法に測り、第一乾燥葉から成分を煮出し、これを乾燥し matep (matte soliwel) インスタント matte として売出している。

同工場の能力は煮出し釜 8 基を備え 1 回の運行に乾燥葉 800 俵 (1 俵 40 ~ 45 Kg) を使用、1 日兼夜運転にて 3 回運行すると計 2400 俵を消費する。同資本の工場が Bousil 側に 6 工場ある。

製造過程は次のようになっている

1. 乾燥第一過程の茎葉から砂類を除去する。
2. これを煮出し釜に入れ、蒸気を吹込み攪拌する。
3. 釜に水を入れ、攪拌抽出し過す。
4. 抽出液を乾燥する。

而して同製品は Argentina に 30%、北米へ 60% 欧州へ 10% の割合で輸出し宣伝中の由 mate 少量を水湯、牛乳等に溶かして飲料にするが味極めて爽快、将来見込ある製品と思はれる。この容液は緑褐色であるが緑色を好むとすれば化学的改良は容易であると考えられる。本製品が世界に進出する場合は当国 Yerba の需要が急増するものと考えられる。仮りに mate の今後伸びをやむとしても当地方の Yerba は品質がよいので他の地方に比べてこれを栽培にとり上げることは不利ではないと思う。ただ当地方 Yerba の品質のよいのは気象のしかしめるものが、野生のものが多く古葉を利用しているためか、品種によるのか不明である。

IV 果樹、蔬菜、養鶏から

前述のように P. J. Caballers 及び Ponta Pora は今後一大発展をなし、又近くは Brasil の新興都市を控えているじせい沢人も住んでいて果樹、蔬菜、畜産物その加工品も多量にしかも割高にさばけることは確かである。

然し当移住地全体的に果樹蔬菜養鶏を営農方針としてとりあげることをさけ立地条件のよい 1 部農業の性格でこれ等を取り上げるべきと思われる。但し常緑果樹、落葉果樹の適良品種を選定すること又その栽培方法を会得するには相当の困難があり、技術者の援助供与が必要がある。

又蔬菜園芸に於いてはレタス、トマス、胡瓜、玉葱、Poteto の外新に苺、アスペラ (Neen)、セルリー等は今後は大いに有望と思われる。而も気象的にみても良質のものが生産され得ると思う。

V 林木生産からみて

前述のように附近一帯は Campo であり近い将来密林団地も開発される、1 方林木の需要は両市及び Donlados 等の発展によつて急増する。

ロッテの中には、低地で気温の酷暑のところ、霜害のおこり易い所があるので高手には Cofe を、低地にはつとめて有用林を育てることが有利である。

VI 香料作物の栽培からみて

前述のように M 氏が香料作物をとりあげて苗の増植を行つているこれを事業化の軌道にのせるには幾多の努力がいる。当地方には有利な Cofe 牧畜があり、又 1 部農家には有利な果樹、蔬菜、養鶏が

あるので、先づこれらに集中専心すべきであつて、香料作物をとりあげることは考慮の要ありと思われる。

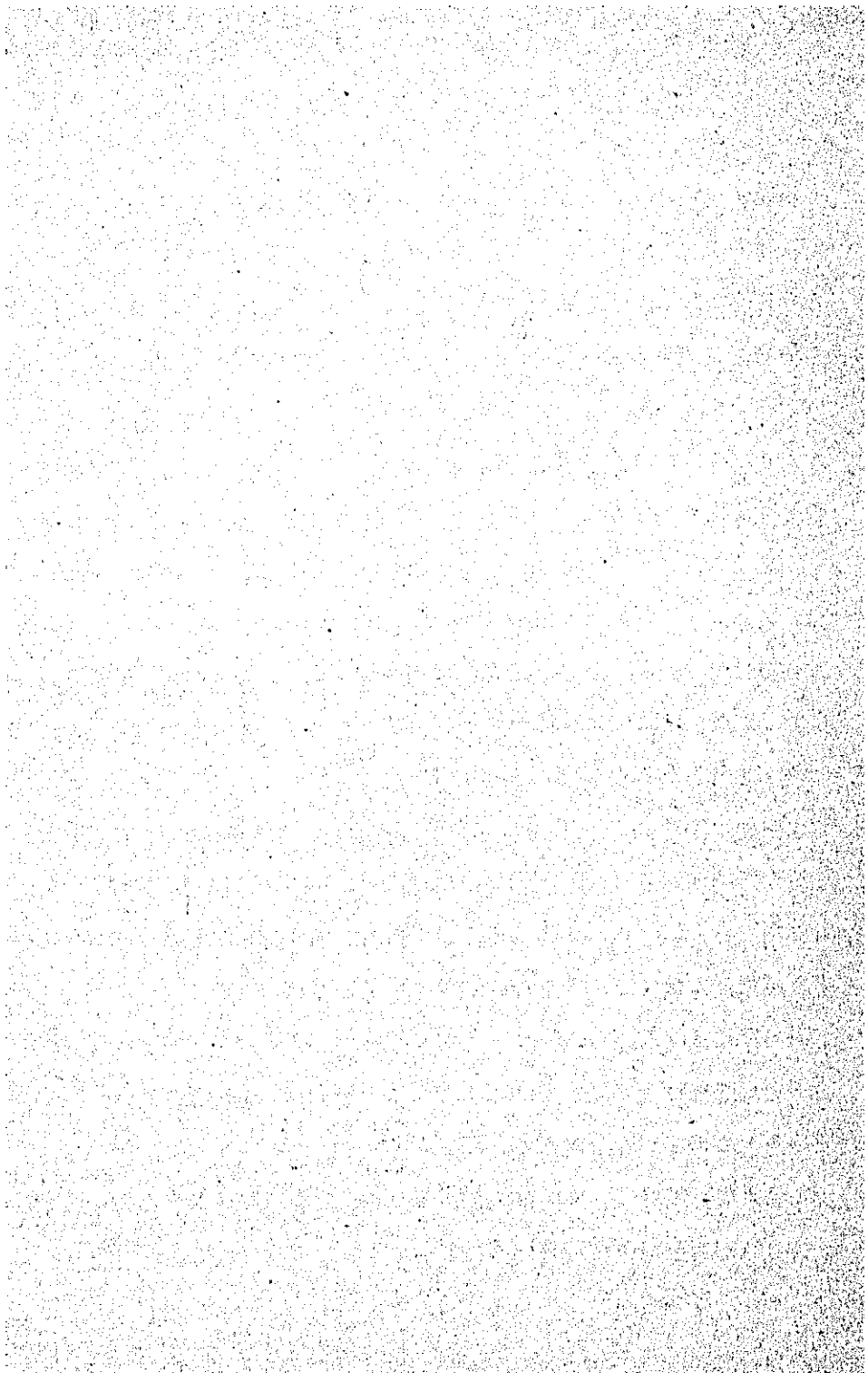
VI 結 語

当地方は本國に於いて唯1つのCofe栽培地帯であり、且つ政府はその栽培に対して、法的に保護育成をしている、今後この増植によつてCofeの輸入を減らし、且つ外貨獲得に1役をはたし得る、その上Cofe価格は比較的高く栽培者も有利である。又此の地方一帯は拡大なCampoが展開している上に、地形、氣象からみて冬期Pastoの成育減退が少く、病害虫も少く、環境は家畜の發育に適している。又肉牛の需要は真に世界的でありその値上りも急騰を辿つている。本地区に於いてはこの立地を充分生かし、当地方はCofeと家畜(牛)の2本建てであることが安定有利と思われる。又P.J.Cobellero及びBrasil側のPoraのみならずDouladon市等の發展により、果実、蔬菜の需要が拡大され、高級ものの消費も多いので1部農家は、都市近郊農業的に園芸に専念し、これに養鶏を加味することも有利となるものであろう。

永年作のYerbaは当地方の原産地とも云える程生育も品質も佳良である而して近時インスタントmatepの製造が製造されているので同永年作も經營の中にとりあげるべき作物の1つであり、又Cofeの不適地には今後有望な有用林の植付もそろそろ取り上げてよい時期である。

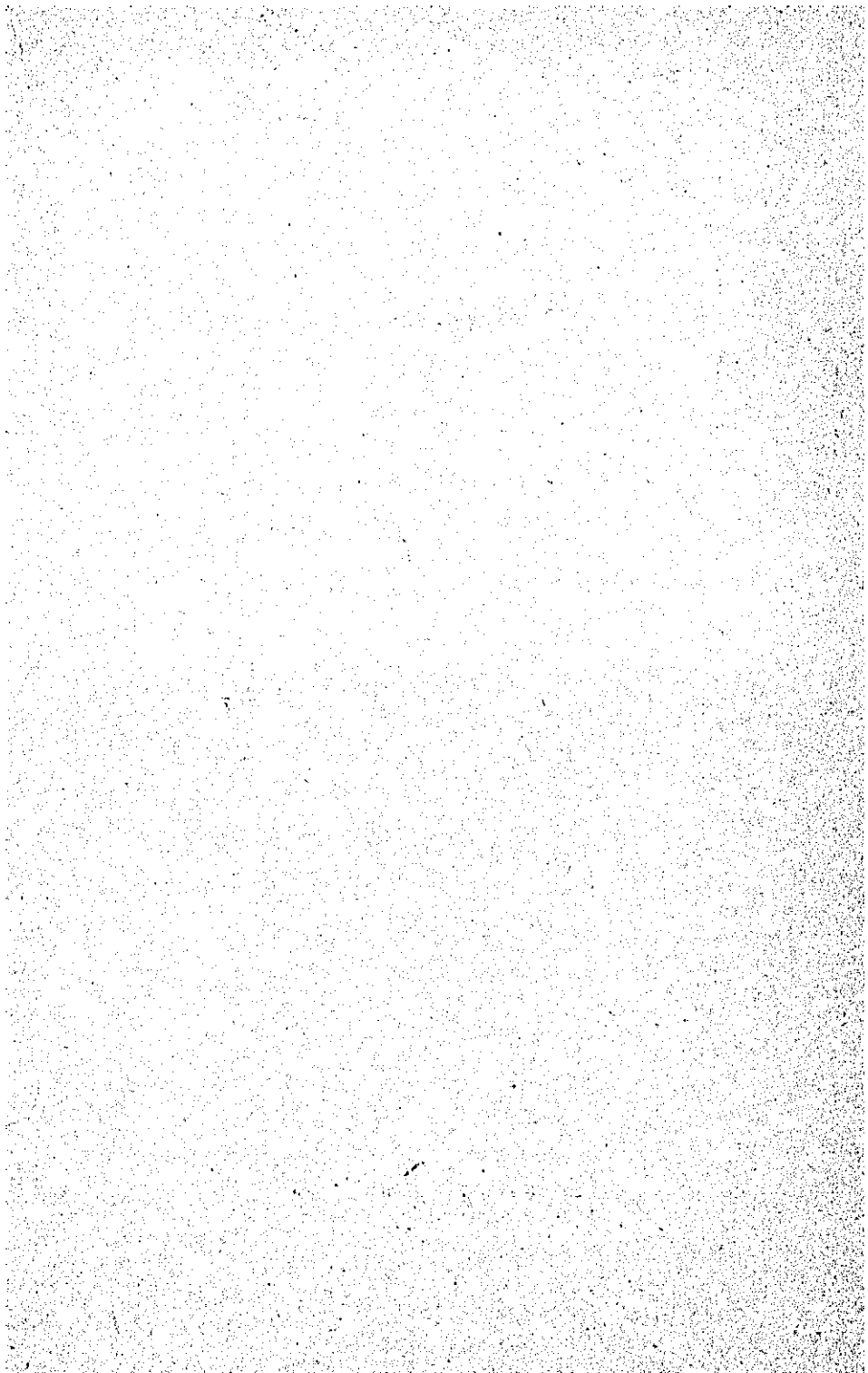
尙当移住地は近い将来、ロット増の希望が起きるのでCofeの栽培適地の選定調査を行つておく要があり、又こゝにCofe栽培の入植を積極的に進めるためにもその要があると思う。

指導農場を設置してない移住であるので、當農指導担当者、特に果樹、蔬菜の技術者を増置する要があると認める。



CAP・BADO 隣接地区適地調査書

報告書番号	昭和34年バテ1号
調査期間	8月20日～9月1日
調査者氏名	瀬川孝吉 坪井一郎
同行者	笠松尚一(海協連囑託)
案内者	仙野惣三郎(C・A・F・E耕地 日本人会々長 Cap・Bado耕地 獲得期成会々長)等 マリオ江口(Cap・Bado在住者)



Cap Bado 隣接地区適地調査書

- 一 地区名 Capitan Bado 隣接地
- 二 面積 国有地 70,000 has のうち 5,000 has を選択する。
- 「註」 5,000 has の算出基礎
- 配分の対照とならない土地（公共施設道路用地その他を 20% と見込む） 1,000 has
- 配分の対照となる土地 4,000 has
- 配分予定内訳
- | | | | | | | | |
|-------------------------|----|-----|--------------|----|---|-------|-----|
| C.A.P.B. 在住者中移住希望者分 | 30 | has | (\times) | 65 | = | 1,950 | has |
| " 中分家予定者分 | 30 | | \times | 41 | = | 1,230 | |
| 近傍在住者中移住希望者分 | 30 | | \times | 10 | = | 300 | |
| そ の 他 | 30 | | \times | 17 | = | 520 | |

- 三 所在地 Capitan Bado Amambay, Paraguay
- 南緯 23°20' 西経 55°35' 標高概ね 650 m

- 四 価格 2,000,000 % 1 ha 当り 400 % 約 600 万円

「註」 上記は 1958 年 6 月 17 日附土地局理事会決議書第 548 号による価格である。なお売方にて地区割をなす場合には、この他に 1 ha 当り 80 % の地区割費を加算する。

五 自然的環境

1. 地質、地形

Capitan Bado 附近は中生代砂岩、玄武岩及び輝緑岩の地層が入り混じって居り、砂岩の地帯の土壌は極端な砂土となつて居るところが多い。しかし、玄武岩或は輝緑岩の地層もかなり大きく、まとまって存在しており、この国有地東北部の大部分はこの地層に因つて居る。

国境線は海拔 650 m を有し、この地帯の嶺となつて居り、この附近が

ら多くの河川がその源をもっている。この国有地の東北部は大きな波状地形をなし、傾斜は0~5%で緩やかである。5つの滝を有する。

YPanl - mi は深い谷（滝の附近で比高約20~30m）を形成している。滝の大きさについて、上流から2番目の滝は巾約25m落差13~14m、3番目の滝は巾約30m落差2.5mである。その他のものについては未調査であるが聞くところによれば、1番目の滝は落差小さく4番目のものは2番目の滝より更に大きな落差を有すると云う。水量はかなり豊富である。

2. 土 壤

Capitan Bado 部落附近及びそれに隣接するMcal Lopez 植民地の大部分は極端な砂土である。しかしOro川以西のこの植民地の部分とそれに続くこの国有地の東北部の地域（第2図参照、斜線の部分）の大部分は玄武岩或は輝緑岩を母材とする植壤土乃至植土で所謂テラ・ローシアであり肥沃であり、排水良好である。

しかし、TPane - mi 河の沿岸約100m~200m（滝の附近で）は母岩及び流石を含み、農耕に適さない。又X川（第2図参照）を中心とする巾約200mは沖積の壤土で水稲或は野菜の栽培に適する。

3. 土地分類

地区の傾斜は0~5%で大部分は0~3%である。（第2図斜線の部分について）従つて大部分は上級地とすることができる（地区は原始的な処女林で道と云うべきものはなく、従つて十分に踏査することが出来ず、厳密に土地分類することは出来なかつた。）

しかし全般的にみてゆるやかな大きな波状地形であるからやや傾斜しているところ（傾斜2~5%）では等高線栽培が必要である。

4. 気 候

地区内に観測記録がないので伯国領, Ponta Pora の記録によれば概ね亜熱帯性気候であり、年により幾分の相違があるが4月～6月及び8月前後と年二回の乾燥期、5月～8月に亘る寒冷期がある。この回数年と一回降霜を見る。1955年の如きは7月と最低極温 -4°C に達し大霜を見た。コーヒー栽培にあつてはこの霜害が最も懸念されるものである。その他の点については特記すべきものはない。(別添表1参照)

5. 用 水

飲料水のためには比較的容易に井戸水又は小河川が利用出来る。又小河川の沿岸の低湿地の一部では小規模の水田耕作も可能である。

6. 耕 水

一部小河川沿岸の低湿地を除き大部分については、内部排水(土層内の)外部排水(地形上での)とも良好である。

六 土地利用現況

1. 現況地目及び植生

概ね、原生林により被われているが、その間原住民族たるインジォが点々居住し住居の周辺を耕作している所がある。

植生としては PEROBA (*Aspidosperma peroba*) の生育が特に顯著で森林を構成するものは概ね次のものである。

Apuleja leiocarpa, *aspidosperma polyneuron*. *Baldoura dendron Riedelianum*, *Chusquea ramosissima*, *Euterpe edulis*, *Holocalyx Balansal*, *Jaracatia dodecaphylla*, *Lonchocarpus*, *Muehlbergianus*, *Merostachys Clansseni*, *Paspalum Bertoni* *Stipa Melanosperma*, etc..

2. 土地所有關係

土地所有者 Paraguay 國政府

紹介者 C.A.F.E. (Compania Americanade Fomento
Economics) 耕地にコロノとして入植した日本人有幾志が契約期限終
了後当該地区に移住したきにつき土地の獲得方を在芭国日本公使館に陳
情したため、日本公使館より吾が社に紹介のあつたものである。

3. 価 格

2,000,000 1 ha 当り 400 ㄱ

〔註〕 上記は 1958年6月17日附土地局理事会決議書第548号に
よる価格である。)

4. 先住者の状況

点々インジォが居住している。彼等は附近に開拓の斧が進めば更に奥地に
逃げ去るのが普通であると云う。而し彼等が地区内に居住することを希
望すれば土地局と合議の上何等かの方法を講ずる必要がある。

七 社会経済的環境

1. 交 通

現在は P.J. Caballers より伯国領 Amamey を経て Cap. Bado まで
12.5 Km 更に Colonia Meal Lopez 間道路により地区を距る概ね 2 Km
の地点まで自動車交通可能道路である。之とは別に伯国との国境に沿つて
P.J. Caballers - Cap. Bado 間道路を伯国側において開さく中で
1960年度中には完成する予定の趣きである。本道路完成後は両地点間
の距離は 80 Km に短縮される。以前は Cap. Bado より Concepcion -
P.J. Caballers 道路に連絡する牛車道があつたが、現在はあまり利用
されていない。又 Cap. Bado よりは伯国 Dourados, P.J. Caballers
よりは伯国の Campo Grande を経て Saõ Paulo 及び Santos に通じ P.J.
Caballers より Concepcion に至り Concepcion より Rio Paraguay
の船便により Asuncion 及び亜国 Buenos Aires に通ずることが出来る。

「註」 P.J. Caballero 及び Cañ Bado はともに伯国との国境にあり同地より国境を越えて伯国に入ることは何等の手続を要せず自由である。

2. 市場及び輸送費

- a 市場は生産物によつて異なるが概ね次の如く考えられる。
 コーヒー及びマテは自国用又は亜国，ウルグアイ国への輸出用とする。
 小麦 自国用とする
 大豆 伯国向又は日本への輸出用とする。
 野菜類 トーモロコシ，フェジヨン，は米として伯国向とする。

b 輸送費

区 間	トラック便	汽 車 便	船 便
現地 P.J. Caballero	5,000		①
P.J. Caballero Concepcion	7,000		②
Concepcion Asuncion			890 ③
Concepcion Buenos Aires			2640 ④
P.J. Caballero Saõ Paulo		450,000	
P.J. Caballero Santos		500,000	

「註」 ① 6 ton 以上の農作物 ton 当りグアラニイ。

② 6 ton 以上の家財道具等が当りグアラニイ。

③ 50 ton 以上のMaiz ton 当りグアラニイ。

④ 家財道具等が当りグアラニイ。

c 生産物の伯国領通過について

本地区よりの生産物の搬出は伯国向けのものは勿論その他のものについても一旦伯国領に出でされば Concepcion, Asuncion 又は Buenos Aires 方面への輸送は不可能の現状にある。

伯国向のもの及び Santos 港よりの輸送物については所定の通関手続をとることにより，問題はないが Paraguay 国自国用及び Concepcion

を経由して輸出すべきものの伯国通過に対しては現行通関手続によることなく便宜の処置にて Paraguay 国より貨物の持出し、持込みを伯国側に容認させるよう取りきめを行う必要がある。当地区の終局目的たるコーヒーは伯国のアソシ制度による生産者側の不利を除き Paraguay 国より輸出することとすれば利益数倍するものである。この盲点を狙って行われた昨年度の伯国より Paraguay へのコーヒーの密輸事件以後伯国より Paraguay への持込は警戒嚴重であるので特にコーヒーについては一旦伯国に持出したものの Paraguay 国への再持込みにあつてはこれら密輸品との区別が必要であり Paraguay 国独自の立場において輸出することになれば、本地区の開発の有利性は薄らぐものである。

従つて伯国を通過することなく希望の場所に生産物の搬出可能の見通しがつくか（換言すれば Cap. Bado - Concepcion 又は Cap. Bado - San Pedro 間道路完成の見通し）又は上記交渉成立後でなければ本地区は着手すべきでない。

d 物 価 (Cap. Bado 値段)

種 目	単 位	価 格	備 考
コ ー ヒ ー	コツコ 1 俵	700	41kg入
マ テ	1 kg	6	
米	1 俵	400	60kg入
フ エ ジ ョ ン	1 俵	300	60kg入
大 豆	"	260	"
玉	"	190	"
労 賃	1 人 1 日	100	"

e 公共施設

Oap. Bado には街役場、郵便局、病院、学校（小学校六年まで）、無電局、飛行場、警備隊、裁判所等 P. J. Caballero には 庁、郵便局、赤十字病院、学校、登記所、薬局、シネマ館、飛行場、停車場、軍隊等がある。

f 衛生

特殊の風土病なく健康地である。

g 入植制限

伯国との国境線より約 4 Km の位置にあるが日本人の入植に就て制限を受ける何等の法律もない。（福岡会計士調査）

h 風俗習慣

住民の対日感情として特記することはない。伯国との国境に近接しているが Paraguay 国人と伯国人との間は極めて円満で治安上の特殊事情はない。

i 特記事項

地区の北境をなす 11° 2' Pane - mi の上流部には滝が 5ヶ所あり第 2 のものは巾 25 m 高 13 ~ 14 m 第 3 のものは巾 25 m 高 3 m あり、何れも水量豊富で将来消費の面を考慮し発電事業につき一考される。

交通については伯国を経由せずして Concepcion 又は Asuncion に通ずる道路の開さくが特に希望される。

八 計 画

昭和 33 年 8 月 30 日農林省振興局拓植課策定南米移住地営農設計の概要 3「ブラジル国南部奥地」の構成想を基礎として樹立した。

1. 営 農

a 営農組織及び規模

- (1) 人員：実人員 5 人 稼働 3 人
- (2) 携行資産 60,000 円 (C.A.F.E 耕地在住移住希望者の収入を予想し 60,000 円程度の資産携行は可能と推定した。)
- (3) 土地(完成時) 宅地 1 ha 耕地 22 ha (うち永年作物畑 13 ha 短期作物畑 9 ha) 森林 7 ha
- (4) 開墾方法 手労働による焼畑開墾現住民に請負わせる。
- (5) 開墾進捗

第 1 年	5 ha	第 6 年	3 ha
第 2 年	3 "	第 7 年	2 "
第 3 年	2 "	第 8 年	2 "
第 4 年	2 "	第 9 年	1 "
第 5 年	3 "		

(6) 作 付(完成時)

永年作物	コーヒー	10 ha	なるべく初期に植付ける。
	マテ	3	余裕を生じた 8 年 9 年目に植付ける
短期作物	稲	3	
	大豆	1.5	
	玉黍	1.5	
	フエジョン	3	

(7) 農作物収量及び単価

種 別	ha 当り 植付数	ha 当り 収 量	1 俵当価格	備 考
コーヒー満4年	750本	25俵	770	1俵はコッコ41kg入
5 "	"	35	"	
6以降	"	45	"	
陸 稻		33	400	1俵は粃60kg入
玉 黍		33	190	1俵は60kg入
大 豆		25	260	"
フェジョン		16	300	"

(8) 家 畜

牛2頭(現在飼育中のものを持参する)11年目に乳牛を導入する。

豚鷄(現在飼育中のものを持参する)

飼料 完全自給する。

(9) 建 物

(10) 農 機 具

(11) 農業経営費

(12) 生 計 費

b

(1) 完成時の営農収支(入植10年後)

粗収入類	農業経営費	農業所得	生計費	農家経済余剰
357,800	99,400	258,400	70,000	188,400

(2) 基本施設

(a) 道路橋梁

別紙分譲予定価格計算概要の通り

(b) 飲料水施設

井戸又は小河川利用とする。井戸掘費用は営農計画書内建物費中に含まれるものとする。

(c) 排水施設

特に計画すべきものなし

(d) 灌漑施設

特に現在計画すべきものなし

(3) 土地利用

永年作物畑	1,729 has	34.6%
普通畑	1,197 "	23.9
宅地	133 "	2.7
林地道路敷その他	1,941 "	38.8
計	5,000 "	100.0%

(4) 入植戸数

133戸

(5) 投資

総額 6,783,900

但し現在(1959年9月15日)の為替レートは1弗=120.5

1% = 2.99円

尙投資についての詳細は別表分譲予定価格計算表の通り。

九 効果

1. 第一効果 $6,783,900 \% \div 133 = 51,007$
2. 第二効果 $6,783,900 \% \div 357,800 = 19$



LIB